

会議結果の公表

附属機関等の名称	新沖縄県史編集委員会
日時	令和5年2月6日(月) 10:00~12:00
開催方法	沖縄県公文書館 講堂
参加委員名	赤嶺政信 久万田 晋 近藤健一郎 里井洋一 高良倉吉 田名真之 豊見山和行 鳥山淳 波照間永吉 比嘉悦子 前城淳子 前泊博盛 宮城晴美 吉浜忍
議題及び報告事項	<p>1 報告及び計画</p> <p>(1) 令和3年度新沖縄県史編集委員会報告</p> <p>(2) 令和3年度刊行物及び令和4年度刊行物について</p> <p>(3) 令和4年度各専門部会・編集協力会議報告</p> <p>① 刊行計画検討専門部会</p> <p>② 「各論編 現代」専門部会</p> <p>③ 「各論編 言語」専門部会</p> <p>④ 「各論編 芸能」専門部会</p> <p>⑤ 「ビジュアル版 沖縄戦」編集協力会議</p> <p>(4) 県史料有償頒布について</p> <p>(5) 近代沖縄史料デジタル化事業について</p> <p>(6) ベッテルハイム日誌日本語翻訳版刊行について</p> <p>(7) 史料調査について</p> <p>(8) 広報・教育普及活動について</p> <p>(9) 「図説編 近現代」部会の立ち上げについて</p> <p>2 審議</p> <p>(1) 県史編集基本計画について</p> <p>① 刊行計画策定の流れ</p> <p>② 第3次刊行計画における変更点について</p> <p>(2) 第4次刊行計画策定に係るヒアリングについて</p> <p>① ヒアリング計画について</p> <p>② ヒアリング報告について</p> <p>(3) その他</p>
議事の概要	<p>※会長及び副会長の選出</p> <p>会議に先立ち、委員の互選により、会長に吉浜忍氏、副会長に宮城晴美氏が選出された。</p> <p>「1 報告」に対して、以下の質疑が出された。</p> <p>(1) 各論編「芸能」について</p> <p>① 芸能編は刊行計画では令和何年度になっているか。 (回答) 芸能編は令和7年度に刊行予定であるが、予算の事情で1年ほど後にずれ込む見込みである。</p> <p>② 新聞関係の著作権処理とはどのようなことをおこなっているのか。 (回答) 新聞掲載の執筆者の生没年を調べ、著作権保護期間の該当の有無を確認し、該当の場合は遺族捜索し承認をとる。遺族も不明な場合は著作権者不明の著作物として文化庁に申請し「裁定制度」を利用する。</p> <p>「2 審議」の各事項について承認が得られ、合わせて以下の意見・要望が出された。</p> <p>① 第4次刊行計画に関連して、各論編「文学」は2029年もしくは2031年に計画するように、また各論編の番号について文学編の番号改善の要望がある。</p> <p>② 各論編にふさわしい資料編が出ると各論編に生かせるため、各論編と資料編の関係をもっと詰めて計画を立ててもらいたい。</p> <p>③ 現代編の増補版や改訂版、現代の資料編は膨大なので目録編の形での提案もある。</p> <p>④ 県史は各巻全体を通して統一的に考える必要があり、ヒアリングを受けて、刊行計画部会で事務局スタッフも交えて議論し、今後も全体としての調整が必要である。</p> <p>⑤ 教育は基本的には文化の先行世代から後行世代への継承なので、文化と継承という観点から教育や人の営み、生きる営みと考えていくことが重要で、沖縄社会の変化を表すようなものと考え、教育編に取り込む視点が重要である。</p> <p>⑥ 通史編のスタイルや執筆方法など新しい通史編のあり方を検討してもらいたい。</p> <p>⑦ 通史編と概説の違いはどこにあるかという問題と関わりがあり、概説は随時改訂していく教科書のイメージも考える。</p>
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
所管課等	沖縄県教育庁文化財課
問い合わせ先	史料編集班 担当: 萩尾 俊章 電話 098-888-3939
備考	